

西中校区健康だより

“健康の輪”



22.9.29
西尾中学校
西尾小学校
花ノ木小学校

暑さが和らぎ、秋の風が心地よく感じられる季節になりました。

校区のみなさまには、日ごろより、学校保健活動にご理解とご支援をいただき、大変感謝しております。西中校区では、毎年西中校区学校保健委員会を開催し、『地域に届けよう“健康の輪”』をスローガンに、活動を推進しています。

昨年度までは、“早ね・早起き・朝ごはん運動”をテーマにすすめてきましたが、今年度からは、“いのちを守る”というテーマですすすめていきます。“いのちを守る”ことの一つの視点として、「安心・安全」があります。そこで、7月29日（木）、西三河農協会館を会場に、地域関係者・教育関係者・保護者・児童生徒・教職員など約300名の参加を得て、会をもち、子どもの安心安全について真剣に考えることができました。

「いのちを守る」

★ 第1部 健康フォーラム ～実践発表と意見交流～ テーマ「子どもの安心・安全について考えよう」

花ノ木小PTA母親代表の池田和泉さんをコーディネーターとして、西尾中・花ノ木小・西尾小の児童生徒が、安心・安全に関するアンケートの結果や各校の取り組みの様子を発表しました。



～安心・安全に関するアンケート結果～ 西尾中3年生 生徒2名

西中2年生と西小・花小の5年生、保護者を対象に行ったアンケートの結果を報告した。コンピュータや携帯電話で知らない人と話やメールをしたことがある人が、中学生では72%もあり、危機管理意識の低さを感じた。保護者に同じ質問をしたところ、70%の保護者が自分の子どもは「ない」と答えた。保護者と子どもの意識のずれが著しく見られた。

～子ども110番の家にインタビュー～ 花ノ木小6年生 児童2名

花小校区には、子ども110番の家が18軒あり、子どもたちの登下校を見守っていただいている。「きらら書房」と「喫茶 瀬里奈」さんにインタビューをし、熱意をもって子ども110番をやっていただいていることがわかった。何かあったときは、いつでも力になると心強い言葉をかけていただいた。

～不審者対応防犯教室の取り組み～

西尾小児童2名、教師2名

西尾小学校では、警察の方を招いて不審者対応防犯教室を行っている。その時に学習した、知らない人に声をかけられたり、腕をつかまれたりしたときに、どうやって手をふりほどくかなどの実践内容を発表し、参加者全員で対処法を実際に行った。また、キッズパトロールの隊長さんから、学校・家庭・地域が協力して登下校時に児童・生徒の安全を守っていることとお話していただいた。



意見交流では、主任児童委員の方や高校の先生から意見を聞くことができた。「メール配信で届く不審者情報は大変参考になる。」「不審者は夜だけでなく、朝や昼間にも出ることがある。なるべく一人ではなく、誰かと行動をするようにした方がよい。」など、幼保・小中・高・地域が連携したフォーラムになりました。

★ 第2部 健康講演

演題 「電子化された子どもの居場所」－情報化社会における心のつながり－

講師 環太平洋大学 次世代教育学部学級経営学科講師

筒井 愛知 先生

パソコン・携帯電話・テレビ・ゲームなどのメディアは、人と人とのつながりが曖昧であり、人と関わる中で育つ「心」や「コミュニケーション能力」が育たず、基本能力の危機を招いている。社会の中に「子どもの居場所」がなくなり、ネット空間の中に「子どもの居場所」ができてきている。そこから派生する犯罪が非常に増えてきており、ネット上のため罪悪感が形成されにくいなど、電子化する社会の怖さを教えていただいた。

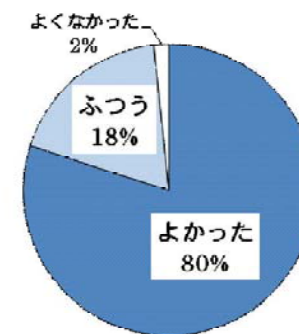
携帯電話を持つ時は、リスクや危険性を知り、持たせる保護者も責任をもたなければならない。マナーを守り、よりよい情報化社会を作っていくことの大切さをお話していただいた。



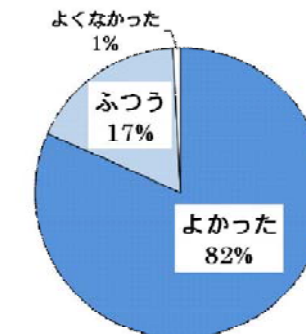
◆◆西中校区学校保健委員会を終えて◆◆

今回のテーマ

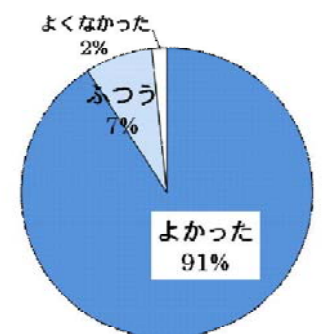
「いのちを守る」は…



健康フォーラムは…



健康講演は…



●参加者の声

子ども110番の家をやっている地域の人などによって、子どもは守られているということがわかった。

携帯電話の良さ、こわさがよくわかり、大変内容の濃い講演だった。

子どもたちの危機感の低さがよくわかった。大人が見守るだけでは限界がある。子どもたち自身が意識を高めてほしい。

ゲームや携帯電話漬けにならないようにしなければいけない。人と人との関わりが大切だということがわかった。

中学2年生のネット上で知らない人と話やメールをしたことのある割合が高いことや、保護者とのずれに驚いた。

★ 今後も、地域や保護者のみなさまとともに『いのちを守る』取り組みを推進していきます。さらなるご支援・ご協力をお願いいたします。